

《歴史家ワークショップ 2021 年度活動実績》

本事業はユニークでシームレスな支援を通じて歴史学研究者の研究能力と発信力を高め、国際的にも評価される高度な研究成果を社会に還元することを目指し、**1) 国際発信力強化、2) 知識共有・ピアサポート、3) 社会との成果共有**を活動の柱としています。本事業は東京大学教育研究経費、またリサーチ・ショウケースは一般社団法人東京倶楽部の助成を受けて実施されています。

☆ 氏名の後ろのカッコ内はそれぞれの活動実施当時の所属等を示し、「・院」は大学院生です。
☆ 活動詳細は <https://historiansworkshop.org/> をご参照ください。

1) 国際発信力強化

リサーチ・ショウケース

リサーチ・ショウケースは、自らが取り組んでいる研究を8分間にまとめて外国語で発表し7分間で質疑応答を行う形式の、大学院生の国際的発信力を高めるためのワークショップです。発表者は事前に査読誌への投稿・査読経験者2名から原稿に対するフィードバックを得ることができ、参加者の投票により優秀発表者に賞が授与されます。

2021年度は英語版2回(第13・14回)と日本語版1回(第1回)をそれぞれ2日間連続でオンライン開催し、合計41名の若手研究者に発表機会を与えました。

発表原稿に対して事前にフィードバックを行う「レビューアーズ・カレッジ」にも、過去の発表者を中心にのべ37名の若手研究者が参加しました。発表者1名に対して2名のレビューア(査読者)が付き、コメントのしかただけでなく、同僚・後輩を支え合うことの大切さについても学びました。

2016年度から大阪大学・京都大学・名古屋大学・東北大学等との共催で全国展開されてきた同プログラムは、2021年度までの16回の開催で総計142名が発表参加し、その後の国際学会での受賞やテニユア・トラック・ポジションの獲得につなげています。

【企画・運営】古川萌・横江良祐(東京大学)【第13回】金沢百枝(多摩美術大学)【第14回】ネイスン・ホプソン(ベルゲン大学), 谷本雅之(東京大学)【第1回日本語】茶谷さやか(シンガポール国立大学), ザヘラ・モハッラミプール(東京大学・院), カミラ・トレス・ビアンチニ(奈良女子大学・院)

- ・ **第13回リサーチ・ショウケース** (2021年7月28・29日、発表者15名/校閲者10名/参加者30名)
司会: 古川萌
ゲスト・コメンテーター: 金沢百枝
- ・ **第14回リサーチ・ショウケース** (2021年11月9・10日、発表者13名/校閲者13名/参加者25名)
司会: 横江良祐
ゲスト・コメンテーター: ネイスン・ホプソン, 谷本雅之

- ・第1回日本語リサーチ・ショウケース (2022年2月21・22日、発表者13名/校閲者14名/参加者25名)

司会：古川萌

ゲスト・コメンテーター：茶谷さやか、ザヘラ・モハッラミプール、カミラ・トレス・ピアンチニ



フロントランナー・シリーズ：多言語論文執筆セミナー

ノンネイティブの若手研究者が直面する「外国語での論文執筆における壁」を認識し乗り越えることを目指し、英語論文の執筆術から異なるフォーマットの学術アウトプット（博士論文・単著・編著の一章担当など）の書き分け方・書き換え方といった応用技術まで、具体的な体験談を聞きながら理解を深め、実践のための知恵を蓄積することを目的とするセミナーシリーズです。

大学院生たちの企画・運営・ファシリテーションによって2020年度にスタートした本プログラムは、2021年度にはオンラインで5回開催されました。

【企画・運営】森江建斗（京都大学・院），山田智輝（京都大学・院），大津谷馨（リエージュ大学・院），長野壮一（フランス社会科学高等研究院・院），米倉美咲（京都大学・院）

- ・フロントランナー・シリーズ7 (2021年5月20日、参加者45名)

ファシリテーター：大津谷馨

講師：仲田公輔（岡山大学）

- ・フロントランナー・シリーズ8 (2021年7月15日、参加者35名)

ファシリテーター：山田智輝

講師：中尾沙季子（京都精華大学）

・ **フロントランナー・シリーズ 9** (2021年9月8日、参加者 63名)

ファシリテーター：長野壮一, 米倉美咲

講師：山本浩司 (東京大学)

・ **フロントランナー・シリーズ 10** (2021年11月17日、参加者 20名)

ファシリテーター：藤本大士 (日本学術振興会特別研究員 PD/京都大学・院)

講師：アリサ・フリードマン (オレゴン大学 U.S.-Japan Women's Journal 編集長)

・ **フロントランナー・シリーズ 11** (2022年3月17日、参加者 21名)

ファシリテーター：藤井碧 (京都大学・院)

講師：穂山洋子 (同志社大学)

英文校閲ワークショップ

英語で書かれた参加者の原稿を対象として、「読みやすさ」とその背景にある「ロジック」を読み解き、校閲スキルを磨くことで、質の高い推敲を自力で始められるようにすることを目的とするプログラムです。本ワークショップで推敲を受けた原稿はすでに海外の雑誌に受理され、国際学会にて発表されています。各地で歴史的アプローチを用いて研究している大学院生・研究者に開かれたトレーニングの機会を提供することで、規模の比較的小さい研究領域でも国際化に必要な切磋琢磨が可能となっています。

2021年度は英文校閲ワークショップ9回と原稿検討会8回を開催し、書籍化の作業を進めました。また、同プログラムの企画・運営も務める安平弦司氏の論文 'Transforming the Urban Space: Catholic Survival Through Spatial Practices in Post-Reformation Utrecht' (2019年度に同プログラムで検討されました) が歴史研究のトップジャーナル *Past & Present* 誌に受理され、2021年12月13日にオンライン版 (advance access) に掲載されました。

【企画・運営】山本浩司 (東京大学), 安平弦司 (日本学術振興会/武蔵大学/ユトレヒト大学)

・ **第4期英文校閲ワークショップ** (2021年4月8日~8月19日、全9回、参加者各回9~60名 / のべ179名)

・ **原稿検討会** (2021年6月7日~2022年3月14日、全10回、参加者各回約6名)

国際シンポジウム

本会の特任研究員・元特任研究員の企画による2つの国際シンポジウムを開催しました。

本会と「近代世界の形成を理解する為のポリティカル・エコノミー研究会 (PoETS)」、東京大学大学

院経済学研究科の共催で行われた「Health, Body, and the Profit Motive: Medicine as a Business in History」には日米欧から12名の若手研究者がオンラインで登壇し、白熱した議論と交流の場となりました。

「海外の日本中世史研究」は、日本史研究者の国際発信力向上と海外研究者との双方向的交流に資する取り組みとして2020年度に5回開催された「日本史史料英訳ワークショップ」の集大成として、対面開催とオンライン同時配信によるハイブリッド形式で実施されました。日米韓中より第一線の研究者を迎え、内外の日本中世史研究の有機的・双方向的交流の可能性を探るとともに、日本史研究の未来を考えました。

【企画・運営】【Health, Body】横江良祐（東京大学）【海外の日本中世史研究】黄霄龍（東京大学）

・ Health, Body, and the Profit Motive: Medicine as a Business in History

(2021年11月19・20日、発表者14名／参加者40名)

主題発表者：ピエール＝イブ・ドンゼ（大阪大学）

ゲスト・コメンテーター：川口大司（東京大学）

・ 海外の日本中世史研究：「日本史」・自国史・外国史の交差

(2022年3月8日、於東京大学・オンライン同時配信、発表者・コメンテーター6名／参加者98名)

報告者：トーマス・コンラン（プリンストン大学），朴秀哲（ソウル大学校），銭静怡（復旦大学）

コメンテーター：川戸貴史（千葉経済大学），原田正俊（関西大学），堀川康史（東京大学）

総合討論司会：菊地大樹（東京大学）



国際シンポジウム
海外の日本中世史研究

2022年
3月8日(火)
9:00-15:00 (日本時間)
同時オンライン配信
アメリカ東海岸時間：3月7日 18:00-23:00
アジア時間：3月8日 9:00-14:00
北京時間：3月8日 8:00-14:00

プログラム

開会式
報告者 東京大学史料編纂所
司会 菊地大樹
山本浩司 東京大学大学院経済学研究科

報告
光と闇を越えて 日本中世史の展望
トーマス・コンラン | プリンストン大学アジア学
韓国からみた日本中世史
一「伝統」と「革新」の観点から一
朴秀哲 | ソウル大学校人文学院東洋学系
中国で日本中世史研究を進展する
銭静怡 | 復旦大学歴史学系

コメント
北原真史 | 千葉経済大学経済学系
原田正俊 | 関西大学文学部
堀川康史 | 東京大学史料編纂所

総合討論
司会 菊地大樹 | 東京大学史料編纂所

参加方法
こちらQRコードから
3月6日(日)迄先着順に
お申し込みください

主催：歴史学ワークショップ
東京大学史料編纂所
https://www.kinokuniya.com/

2) 知識共有・ピアサポート

成果発表のノウハウを共有するための各種「スキル・ワークショップ」を、2021年度も継続開催しました。

コーヒータイム・シリーズ

研究の楽しさや研究にまつわる悩みを気軽に共有し助け合える場を作ろうと、国内外の博士課程に在籍する大学院生が中心となって、2020年度より企画・運営を行なっています。

孤独に研究する大学院生・研究者が分野を横断して集まり、アカデミア外の人たちとも人間的なつながりを構築することを目的とする本シリーズは、2021年度に4回開催されました。

【企画・運営】赤崎眞耶（ポール・ヴァレリー（モンペリエ第三）大学・院），市川佳世子（日本学術振興会／フリブール大学），大津谷馨（リエージュ大学・院），纒田宗紀（アーヘン工科大学・院），北川涼太（広島大学・院），篠田知暁（東京外国語大学），藤田風花（京都大学・院），槇野翔（ダブリン大学・院）

- **Coffee Time Series 5** 「あなたの研究を3分で」（2021年7月23日、発表者8名／参加者37名）
ファシリテーター：槇野翔
- **Coffee Time Series 6** 「研究者のライフプラン：留学・博論・育児」（2021年9月24日、参加者38名）
ファシリテーター：大津谷馨
登壇者：纒田宗紀
- **Coffee Time Series 7** 「研究と多様なキャリアプラン」（2022年1月28日、参加者27名）
ファシリテーター：赤崎眞耶
登壇者：山野井茜（日系コンサルティング会社），中野弘喜（東京大学出版会），三田香織（中央大学）
- **Coffee Time Series 8** 「当事者ミーティング」（2022年2月18日、参加者10名）
ファシリテーター：北川涼太



スライド道場

学術発表を補助する視覚資料（スライド）は、発表の質を向上させる要素として重要な役割を担っています。よりわかりやすく説得的に内容を伝えられるスライドの作成について話しあい、そのポイントやテクニックを可視化かつ共有するワークショップ2回が2020年度に企画・開催され、好評を博しました。より広いオーディエンスに情報を共有するため、2021年度に同内容のワークショップを再度実施し、録画動画を歴史家ワークショップYouTubeチャンネルで公開しました。

【企画・運営】古川萌（東京大学）

- ・「スライド道場 リターンズ！」（2021年10月25日、発表者2名／録画再生回数約200回）
司会：古川萌
講師：今西美音（竹中技術研究所）



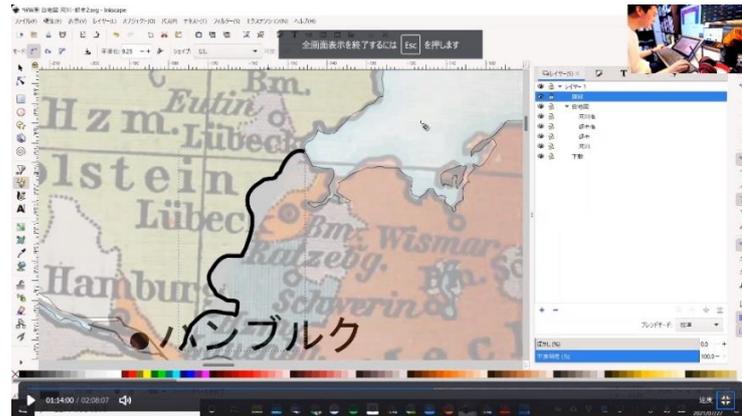
歴史地図を描く

過去の地理空間を視覚的に説明する「歴史地図」は歴史家が研究報告を行う際にも必要となりますが、自分の研究に合う適当な地図を先行研究などから見つけ出すことは困難で、多くの研究者が自作せざるを得ない状況です。描画ソフトについて学ぶ機会はほとんどなく、アナログな手法で地図を作成すれば時間も手間もかかる上、見栄えも良くありません。

同プログラムでは独学で書籍用の歴史地図を作成した若手研究者を招き、フリーソフトとフリー素材で「歴史地図」を描く方法についての講義と実演をオンラインで行いました。大学院生や研究者のみならず出版社社員や高校教員など幅広い参加者から好評を得、録画動画を歴史家ワークショップYouTubeチャンネルで公開しました。

【企画・運営】吉田瞳（京都大学・院）

- ・「歴史地図を描く：研究発表に使える作画法」（2021年7月27日、発表者1名／参加者95名）
司会：吉田瞳
講師：衣笠太郎（秀明大学）



特別ワークショップ

武蔵大学で開催された第71回日本西洋史学会で、下記の特別ワークショップを実施しました。

【企画・運営】高橋亮介（東京都立大学）

- ・特別ワークショップ「日本の大学で西洋史学を教える：教室での実践から」
(2021年5月15日、於武蔵大学、第71回西洋史学会と共催、参加者240名)
報告：森谷公俊（帝京大学），八谷舞（亜細亜大学）
コメント：津田拓郎（北海道教育大学旭川校）

Tokyo Digital History

Tokyo Digital History は、歴史家ワークショップの一部として、2018年より大学院生を中心に活動を始めた研究グループです。「歴史研究者のための Python 勉強会」「歴史研究者のための TEI 入門セミナー」など数々のイベントを実施して、歴史研究のためのデジタルメソッドの可能性を探ってきました。

2021年度にはデジタル時代の歴史学、デジタル技術を取り入れた歴史研究の可能性と課題等について、Hannu Salmi, *What is Digital History?* (Polity Press, 2020) を講読するオンライン定期研究会に協力しました。

【企画・運営】小風尚樹（千葉大学）

- ・Tokyo Digital History 第2回研究会（2021年6月30日、参加者17名）
- ・Tokyo Digital History 第3回研究会（2021年7月29日、参加者17名）



3) 社会との成果共有

パブリック・エンゲージメント

一般参加者に「研究者の問題関心」を知ってもらうとともに最新の歴史研究の知見を社会に還元するため、参加型ワークショップや連続講座などを企画・開催しています。英米圏のアカデミアで重視されつつある public engagement のボトムアップの取り組みとして、2021 年度には 2 回のイベントを開催し、一部の録画動画を歴史家ワークショップ YouTube チャンネルにて公開しました。

【企画・運営】【配信時代のアウトリーチ】吉田瞳（京都大学・院）【史料読解ワークショップ】峯沙智也（東京大学・院）

- ・「配信時代のアウトリーチ」（2021 年 9 月 25 日、録画再生回数約 2,000 回）
講師：ヒロ・ヒライ（コロンビア大学），藤村シシン（古代ギリシア研究家）
- ・史料読解ワークショップ：言説編「書き手と読み手を読む」（2022 年 2 月 19 日／3 月 12 日、参加者 37 名／13 名）
講師：速水淑子（横浜市立大学），中島浩貴（東京電機大学）



配信時代のアウトリーチ

藤村シシン (古代ギリシア研究家)
ヒロ・ヒライ (コロンビア大学リサーチ・アソシエイト)
9月25日(土)21時~23時YouTubeで生配信
Historians' Workshop チャンネル
(後日再配信のチャンネルからアーカイブを視聴可能)
#歴史家ワークショップ
でコメント、質問お待ちしております！
主催 吉田瞳 (京都大学大学院文学部) inka@gepost@gmail.com



vol. 3 史料読解ワークショップ：言説編
一書き手と読み手を読む一
歴史家ワークショップ
2月19日(土)16時-19時

講師
中島浩貴 (東京電機大学)
専門：ドイツ近現代史、軍事史
著書：『国民皆兵とドイツ帝国 一般兵役義務と軍事言説 1871~1914』
速水淑子 (横浜市立大学)
専門：政治思想、文学、ジェンダー研究
著書：『トーマス・マンの政治思想：失われた市民を求めて』

対象：学部3年生以上、歴史学や思想史など歴史史料を用いた分野に興味のある人
(学部生・社会人・現在留学中の方も歓迎します！)

企画・司会
峯 沙智也 (東京大学博士課程・ドイツ近現代史)

申し込み: <https://forms.gle/2swXEwu8Wp4Se82i8>

何を「いい」か、誰が書いた作品であろうか。
雑誌の表紙を飾ったオーストリア貴族が、この絵を見る者に感嘆しを肉付している。
一書き手も感銘される。 ハラス・ラス・メーナス (ゾラド・作家館蔵)